



5:57 如意輪寺駐車場



6:18 古い登山道



6:19 近畿自然歩道

5:57 (よしの駅/)如意輪寺駐車場発 (1:20/0:47⇒吉野山水分神社)

車道歩きを回避すべく、スマホの地形図で位置を確認しながら藪漕ぎを含め道なき道を進むと、登山道そして近畿自然歩道に交差。歩き易くなった。やがて、表示されている吉野山水分神社の標識を頼りに歩く方向を定める。

如意輪寺(にいりんじ)は、奈良県吉野郡吉野町にある浄土宗の寺である。山号は塔尾山(とうのおさん)。本尊は如意輪観音。本堂の背後には、吉野の地で崩御した後醍醐天皇の陵・塔尾陵(とうのおのみささぎ)、世泰親王墓がある。

平安時代の延喜年間(901年 - 922年)に日藏上人により開かれたと伝わる。南北朝時代、後醍醐天皇が吉野に行宮を定めた際に勅願所とされたが、天皇は還京叶わぬまま崩御して本堂裏山に葬られた。以来寺運は衰えたが、慶安3年(1650年)文誉鉄牛上人によって本堂が再興され、その際に真言宗から浄土宗に改宗した。



伽藍遠景



如意輪堂(本堂)



多宝塔

6:44 吉野山水分神社(第72 扉 0:40/0:36⇒金峯神社/奥千本口)

世界遺産登録神社を通過。この付近は車道歩きだ。朝早いせいか人影は無い。ポケモン GO で遊びながら歩く。名所と旧跡が多いのでポケストップとジムが多い。



6:20 近畿自然歩道の石畳



6:44 吉野山水分神社



6:55 高城山分岐

6:55 高城山分岐

7:20 金峯神社着 (第71 摩 0:40/0:22⇒青根ヶ峰) 7:39 発

世界遺産登録神社を通過。計画では9:40通過だ。2時間半ほど早い。明日天候が崩れる天気予報なので、2日分歩いて、山上ヶ岳の宿坊まで行けたらいきたいと考えながら歩く。



7:13 金峯神社・修行門_パノラマ



7:13 金峯神社・修行門遠景

金峯神社(きんぷじんじや)は奈良県吉野郡吉野町にある神社である。吉野山最奥の青根ヶ峰のそばにあり、吉野山の地主神を祭る。式内社(名神大)で、旧社格は郷社。
境内はユネスコの世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』(2004年7月登録)の構成資産の一部。
吉野山の地主神である金山毘古命(かなやまひこのみこと)を祀る。



拝殿



義経隠れ塔



7:46 西行庵分岐



7:55 女人結界の碑

7:46 西行庵分岐

7:55 女人結界の碑

ここから青根ヶ峰山頂経由と大峯山(山上ヶ岳)へ直行する道とに分かれている。青根ヶ峰山頂は奥駈道の一部なので、寄り道にはなるが山頂へ向かう。

8:01 青根ヶ峰着 (1:10/0:47⇒試み茶屋跡)8:09 発

車道を離れ巻道を通って山頂へ。2010年4月に吉野の桜見学に来た折、ここまで来て、大峯奥駈道の出発点だと感慨深げに感じ入った場所だ。山頂で休憩。展望は無い。単独行の男性2人と会う。

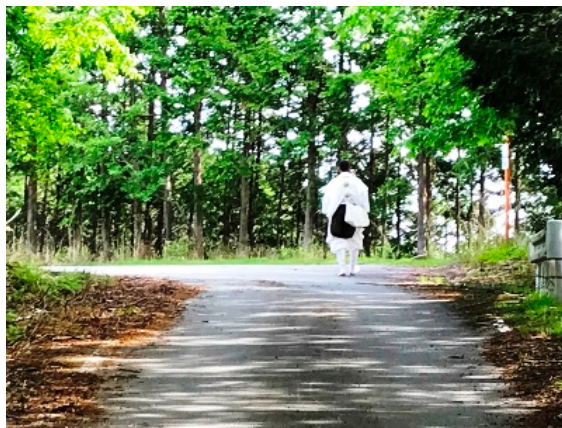
http://www.7b.biglobe.ne.jp/~our_outdoors_life/subpage/hyakureihou3.html#yosino



8:04 青根ヶ峰山頂



8:11 青根ヶ峰下り分岐



8:13 山伏姿の人とすれ違う

8:40 尾根分岐 車道から再度尾根道の奥駈道に入る。車道と交錯しながら尾根道を歩く。



8:40 尾根分岐



8:56 心見(試み)茶屋跡



10:06 四寸岩山山頂

8:56 心見(試み)茶屋跡着(1:00/0:56⇒四寸岩山) 9:10 発

休憩。ここから長い登りが続く。トレラン風単独男性が、早いスピードで追い越してゆく。さらに軽装の男性2人が追い越していく。

10:06 四寸岩山山頂着(1:00/0:57⇒二蔵宿小屋) 10:23 発

休憩。およそ1時間ピッチでの休憩だ。登りはきつい。五番関の下に車を駐車して登ってきたようだ。

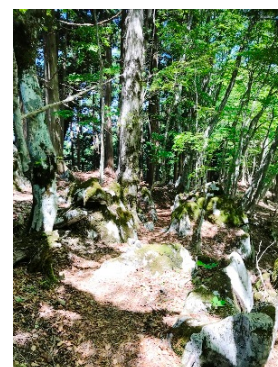
10:37 足摺茶屋跡 足摺宿と標識のある小屋があるが通過。中を覗くと、社が祀ってあった。



10:37 足摺宿



足摺宿内部(借用)



10:40 苔岩尾根

11:20 二蔵宿小屋着(第 69 扉 1:20⇒大天井ヶ岳 0:40⇒五番関 Σ2:00/1:24⇒五番関) 11:50 発。

大休憩。水場 10 分の標識有。単独男性 2 人が到着。2 人とも大天井ヶ岳方面だとのこと。60 歳前後の年配の方は、五番関から下り、40 歳前後の方は大天井ヶ岳山頂から尾根筋を洞川に下るようだ。四寸岩山ですれ違った 2 人が大天井ヶ岳の巻道を進んで行った。吉野の金峯神社を過ぎた登山道に下記のような注意書きがあったので、大丈夫かと思ったが、来た道を引き返すようだったので、通過できると思い、大天井ヶ岳に登るのを止め、水も不足気味なので、水場のある横駈の道を選択することにした。午前中に出発できるので、計画ではここ泊だが、後正味 4 時間 50 分なので出発。

◎大峯山、山上ヶ岳方面へ行かれる方へ◎

山上ヶ岳への道中、百丁二蔵宿から五番関の間、水場を通過する横駈の道(新道)は、大きく崩落し通行することができません。百丁二蔵宿より、大天井ヶ岳山頂を越えて、五番関に至る吉野古道を通行することになります。時間と体力に余裕をもってご通行下さい。



11:19 二蔵宿小屋が見えた



11:42 二蔵宿小屋内部_パノラマ

12:25 水場着 12:45 発

途中崩れた場所があったが、トレースはついており、何とか通過できた。最初の水場は水量が多く冷たくおいしい水だった。巻道は、大天井ヶ岳のかなり下部標高 1,100m~1,200m 付近を巻くので、大天井ヶ岳山頂の 1,439m とは 200m 以上の差がある。その分巻道の距離は長い。ポットにも補給して出発。

13:07 水場通過 こちらの第二の水場も、水量は豊富だ。一口飲んでみたがこちらも美味しい水だった。巻道は傾斜があり、道幅も狭く、慎重に歩く場所も多かった。

13:34 五番関着(1:50/1:42⇒洞辻茶屋) 13:56 発

「女人結界門」だ。大峯山寺の「登山者へのお願い」説明板があり、女人禁制の聖地であることの歴史的背景などが説明してあった。また、門の右側に平成 9 年 10 月女人禁制解禁のごく誤った報道もあったことへの説明文もあった。地図で見ると山上ヶ岳に続く全ての登山道に、この結界門があるようだ。二蔵宿小屋で一緒だった同世代の方が山頂経由で降りてきた。巻道と同じくらいのタイムだ。登りがきつかったとのこと。



13:34 五番関



13:34 女人結界門



13:34 登山者へのお願い

14:27 鍋カツギ行者 鍋が木にぶら下がっている。その横に祠(お堂)がある。お堂の脇に備えてある「鍋冠行者堂縁起」には以下のように記載されているようだ。(後日調査。)

鍋カツギ行者のお堂前で、立ち休みがてら説明文などを読んでみると、後方から大きなリックを担いだ若い単独の男性が、ゆっくり歩きながら追い越して行った。

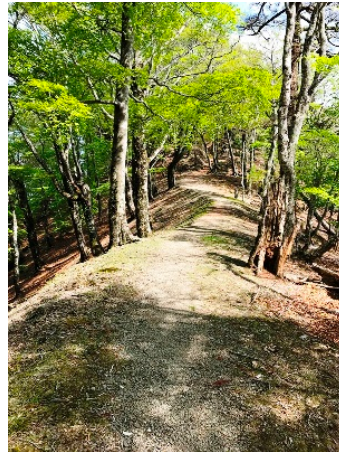
鍋冠行者堂縁起 by 古代文化研究所 <https://blogs.yahoo.co.jp/yan1123jp/34821197.html>

文武天皇の御宇、修験道の開祖役の行者(神変大菩薩)が吉野熊野を結ぶ大峯山中で衆生済度の為に修行中、この付近にさしかかった時、その修行を妨げようと大蛇が現れ、口から火を噴き、その火は玉となって行者に降りかかりました。行者は峯中での食事に携帯していた鍋を被ってその難を避け、修行で身につけた呪術で、その大蛇を退治しました。その大蛇の頭は現在の大峯山本堂のあたりに弾け飛んだので、本堂の内々陣は現在も辰の口と呼ばれています。また、その大蛇の尾は、遠く吉野山まで弾け飛び、その地は現在、辰の尾という地名になっています。さらに、その大蛇の腹部がよこたわっていたこの付近は蛇腹と呼ばれています。

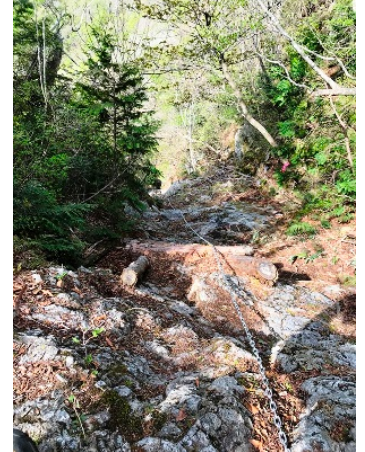
このような故事にちなんで、古くからこの地には、ほかに類を見ない鍋を被った型の行者像が祀られるようになりました。そして、いつの頃からか、このお堂は大峯山寺役講の京橋総講中によって、建て替えや補修が行われるようになり、現在も同講中によって維持管理されています。



14:27 鍋カツギ行者



14:48 快適な尾根



15:09 鎖場

15:05-09 ロープ・鎖場

気持ちの良い尾根をしばらく歩いた後、ロープと鎖場が続く20mほどの岩場があった。傾斜は強くないホールディング、スタンスも沢山あるが、荷物が重いと答える。鍋カツギ行者で私を追い越して行った若者が休んでいた。その後追い付いてこなかった。

15:38 洞辻茶屋着(1:00/1:06⇒山上ヶ岳) 16:03 発

土曜日だったので売店が一軒営業していた。ココ・コーラを買った。この売店には「嶺露霧会」ののれんや旗が架けられていた。聞くとこの会は、洞川集落の人達が、参拝に来る人を支援するために、登山道の整備や、茶屋を開いているそうで、ボランティア活動とのこと。今日は5月連休後の週末なので、毎年人出が一番少ない週とのことだ。それでも10人前後の団体が、次々におりてくる。「よう、お参り」と挨拶してくる。こちらは信者ではないので、「こんいちわ」と言っても、「こんいちわ」の返答はない。そのうち、当方も「よう、お参り」と言うようにしたら、相手からも同様の挨拶が帰って来た。ここから宿坊まで、後1時間のコースタイムだ。ずっと急な登りできつそうだ。



15:37 洞辻茶屋・不動明王・皇太子立寄碑



15:37 洞辻茶屋・国立公園説明



洞辻茶屋(借用)

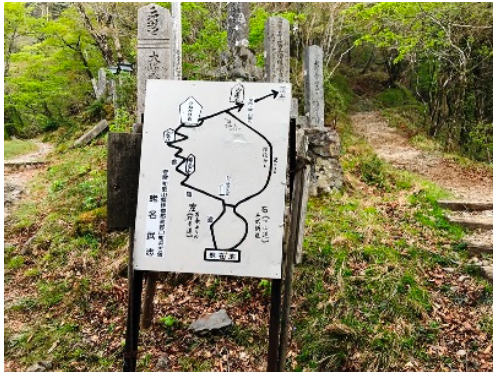


16:15 陀羅尼助茶屋(だらにすけ) 大峯製「だらにすけ丸」松清店

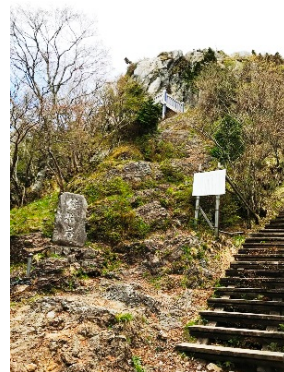


16:18 左右道分岐

緩い坂道を登っていくと、陀羅尼助茶屋(だらにすけ)、「だらにすけ丸」松清店と続き、やがて左右分岐の表示がある分岐点に到着。左の古来よりの行者道を選択。右は下り用と追記されている。



16:18 左右道分岐



16:39 鐘掛岩



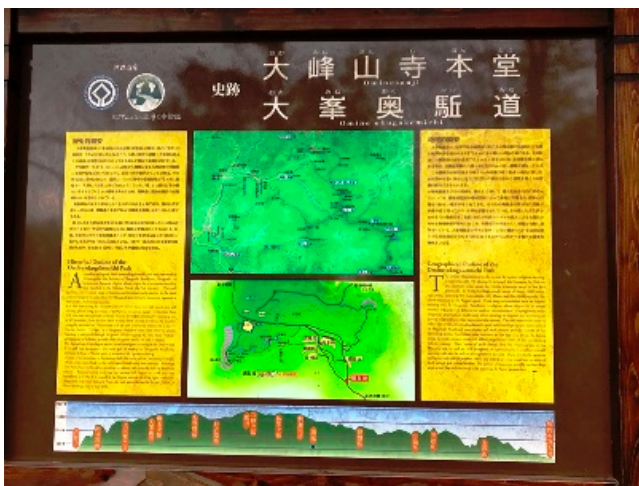
16:46 下り分岐

16:39 鐘掛岩

上部に絶壁の岩場が見える。その右側を木道の階段が上に延びている。ここから木道階段や岩場が多くなる。そういえば先ほど長い岩場を通過した。傾斜は強くなかったが、鎖が付いていたので、多分油こぼしと呼ばれる難所だったと思われる。

16:46 下り分岐

登り切り平らになると、下り坂との分岐があった。二手に分かれたルートの上部合流点だ。振り返ると、標識が建てられており、左に向けた矢印に下山道と記されている。坂のある岩道を登ると西の覗、さらに木道の道や岩の坂道をあえぎながら登ると、5軒ある宿坊エリアだった。



17:04 大峯奥駈道の説明案内板



17:09 宿坊・喜蔵院

17:10 宿坊・喜蔵院

予約した喜蔵院は一番奥にあった。明日予約してあったが、明日は天候悪化の予想なので、1日早く来たなどの説明をして連泊の可能性が高い旨話した。夕食は5時からなので、手続き後部屋に入る前に、そのまま1階の食堂(土間)で食事。煮つけと漬物、バケツに入った味噌汁の精進料理。十分だった。部屋は2階の

奥(写真の向かって左端)の大部屋を1人で占領。7時前からお風呂に入る。温めのお湯を沸かしながら入った。これが最高だった。今日の宿泊者は私一人のようだ。LINE やメールで状況報告後、8時頃就寝。尚この宿坊は、世界遺産に登録された2004年以降、電気が開通しているとのこと。

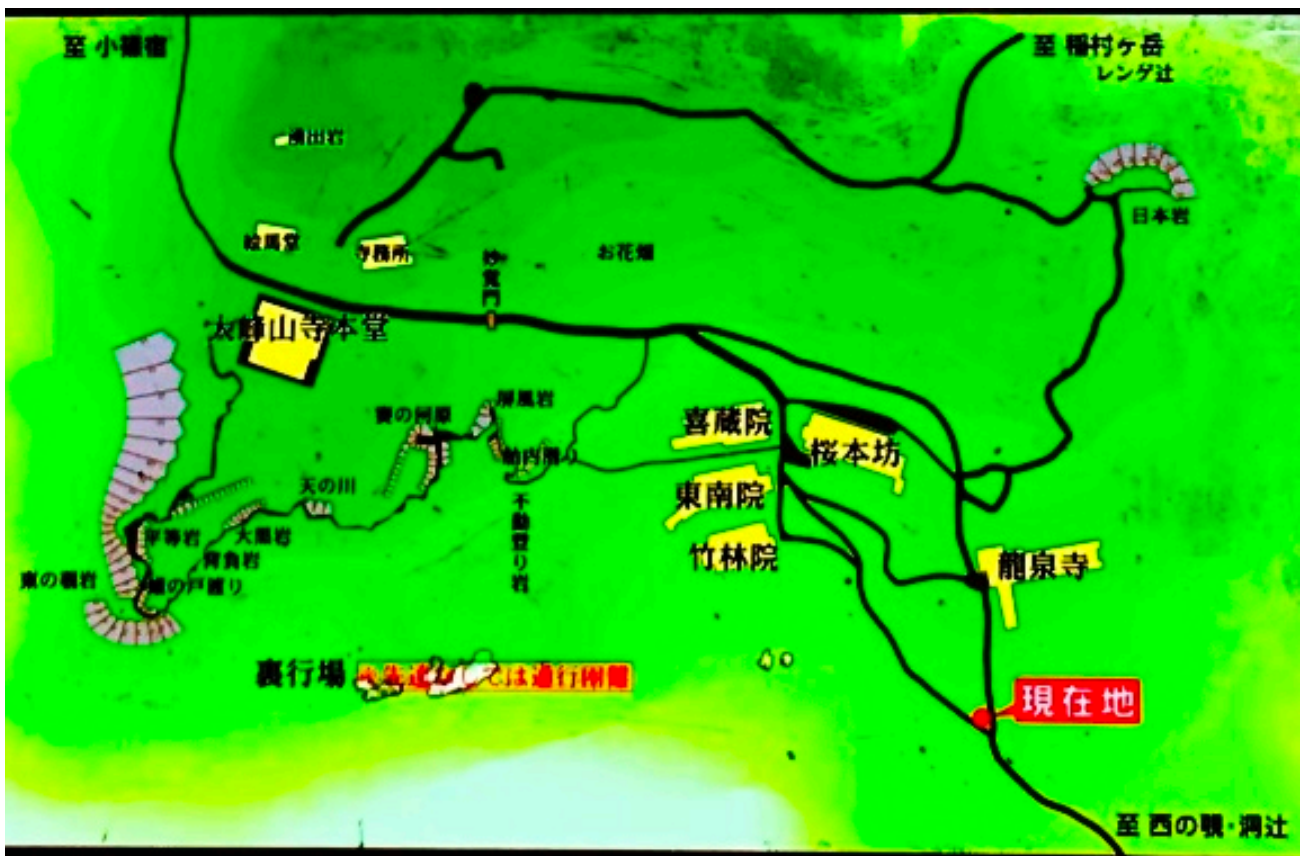
役小角

役小角(えんのおづの /おづぬ /おづの、舒明天皇6年(634年)伝 - 大宝元年6月7日(701年7月16日)伝)は、飛鳥時代の呪術者である。**役行者**(えんのぎょうじゃ)、**役優婆塞**(えんのうばそく)といった呼び名でも広く知られている^[1]。姓は君。修験道の開祖とされている。実在の人物だが、伝えられる人物像は後世の伝説によるところが大きい。天河大弁財天社や大峯山龍泉寺など多くの修験道の霊場に、役行者を開祖としていたり、修行の地としたという伝承がある。

By ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/役小角>

宿坊

大峯山寺は、「護持院」と称される5つの寺院が交替で維持管理に当たっている。護持院は桜本坊(金峯山修験本宗)、竹林院(単立)、東南院(金峯山修験本宗)、喜蔵院(本山修験宗)、龍泉寺(真言宗醍醐派)の5か寺である。うち龍泉寺は山上ヶ岳の麓の天川村洞川(どろがわ)に本寺があり、他の4か寺の本寺は吉野山にある。大峯山寺本堂の手前5分ほどのところにはこれら5か寺の宿坊が固まって立地している。(営業期間は、5月3日~9月21日まで)。宿坊であるので、宿泊施設1階の食堂に面して本尊が祀られており、喜蔵院には蔵王権現が、他の4宿坊には神変大菩薩が安置されている。すべての宿坊は信者だけではなく一般登山者も山小屋代わりに宿泊でき、山頂に近い立地にもかかわらず風呂があるがサービス施設でなく精進潔斎のための施設とされている。食事は精進料理であるが、量は多くなく質素な内容である。女人禁制の区域にあるため宿泊者は男性に限られる。そのため浴室の更衣室が通路や玄関から丸見えの宿坊があるなど、女性がいけないことを前提とした造りが見られる。(宿坊の申し込みは護持院である5か寺へ)



17:04 宿坊入口にある宿坊周辺地域案内図